

# 機能解剖学講座～脊椎を全体-局所で捉える～

今日のお話は脊椎です。  
頸部～仙骨までありますよね。

腰が痛い、肩が痛い、首が痛い...  
ってまあそういう患者さんが  
非常に多いわけです。

その背景を考えてみましょう。  
腰が悪ければ首も悪くないか？

首が悪ければ、腰も駄目でしょ？  
こう思うわけです。

脊椎には、  
S字上のカーブがあるわけですね。

となると、下がおかしければ、  
上がおかしくなったって、  
必然ではないかと思う思考が大事です。

別の表現をすれば、  
脊椎の機能不全。

ですから、私は当然、  
腰が痛い人でも腰だけじゃなく、  
足から見て腰はどうか？

首は怎なの？肩は怎なの？  
強いては顎は怎なの？

関節が連動する中で末梢からの患部への影響。  
中枢からの患部への影響はどうか。  
こういう考え方をしていきます。

ですから、腰痛を見ていくなかで、  
背骨も首・胸部・腰って局所的に  
考えるだけじゃなく、

“脊椎”として見ていくってことは  
絶対大事になってきます。

その脊椎において、  
トピックスがあるのですが、  
胸椎の12番。

胸椎12番と聞いて連想する病態といえば、  
圧迫骨折が多いですね？

なぜ、12番って圧迫骨折多いんだろう？

力学的にっていうのはなんとなくわかる。  
腰と背中の間だから機能的に違うんだろうなど。

胸椎の12番で、一つの椎体の中で  
上と下の関節の構造が違いますよ。

だからこそ、  
動きのベクトルが変わるので折れやすい。

それだけ力学的には、  
ストレスがかかるわけです。

そんな胸椎ですが、  
首・腰を見ていく限り、  
胸椎は外せないんです。

胸椎って当然ながら、  
肋骨が付いているので、  
なかなか動かないんです。

首や腰が日常生活動作で動くときに、  
回旋という胸椎の機能が働くからこそ  
滑らかな動きが出来るわけです。

肋骨のその中には肺がありますから、  
呼吸っていうことにも影響してくる。

呼吸が上手にできないと、  
体ってのは上手に使えませんからね。

そのあたりのことを考えてみると、  
肋骨-胸椎-頸椎-腰椎を

一つのパッケージとしてみていく。

脊椎という単位で考えていけば、  
首でストレートネックだね。  
ということであれば、

重心ってことも考えてみて、  
顎はどうですか？  
っていうお話もできてくる。

どんどんと広がってくるんです。  
それが分かってくると、

もしかして、  
ちょっと歯ぎしりしませんか？

って一言言っただけでも、  
実はそうなんですよ何でわかるんですか？  
とかっていう話が出てくるんです。

そこからどんどん展開していくことで、  
実はここが悪いんですよって  
見つけることができる。

その体を見ての臨床推論じゃないですけど、  
ここがおかしいんだろうか？  
っていうのを見つけていく。

治療に関してのテクニックって、  
大事ではあります。

しかし、見立てていく、  
特に、背骨の見立てってのは、  
動作機能的な部分での見方が、  
大事になってきます。

背骨をひとつの単位として考え、  
末梢-中枢・中枢-末梢の展開の中で、  
背骨が与える痛みへの影響を考察する。

皆さん、こうした考えで臨床において、  
脊椎へのアプローチをしてみたいかがでしょうか？